

# 卒論Q & A

回答者 西洋史コース 井上浩一

## Q 1, 卒論とはどういったものと捉えておられますか？先生のお考えをお聞かせ下さい。

学生生活の集大成、一生の財産。

将来どの分野に進んでも、卒論で「～」を勉強したことが自分のどこかに残っている、そんな卒論を書いてほしいと思います。

## Q 2, 先生のなさっている卒論演習の流れを教えてください。

西洋史コースでは集団指導・個別指導を併用しています。院生も指導に加わります。以下は西洋史全体としての指導です。これに個別指導が付け加わります。

(1) 2年生末——大体のテーマ（時代や地域）を決めます

卒論準備レポート（1）提出——これまで読んだ本を中心に、希望するテーマについて簡単にまとめてもらいます。

(2) 3年生——「西洋史演習」の授業の一環として卒論へ向けての報告をします

卒論準備レポート（2）提出——演習での研究発表をまとめてもらいます。

(3) 4年生——卒論演習（教員・院生・学生全員が集まるのは5回）

①準備報告（4月）——準備レポート（2）に依りつつ、卒論テーマの確認と院生アドバイザー2名を決定

②中間報告1（5月）——テーマに関する概略を報告

③中間報告2（7月）——先行研究を網羅的に調べて報告

④中間報告3（9月）——卒論の中心となる部分について、史料に基づき詳しい報告

⑤最終報告（11月）——最終構成（目次）案に基づき報告。『執筆要綱』配布・説明

※それぞれの報告に向けて、学生は個別に教員の指導を繰り返し受けます。院生にも相談に乗ってもらいます。

## Q 3, これから卒論を作成する学部生に、メッセージをお願いします。

(1) 自分もっているさまざまな力を総動員して、ひとつのことに打ち込む機会は滅多にありません。卒論は可能性への挑戦です。

(2) 自分に取り組んでいる卒論について、是非友だちに知ってもらいましょう。また、友だちから卒論の話聞きましょう。学生諸君が主催する卒論関係のイベントにも積極的に参加して下さい。

(3) **個人の挑戦、友だちとのつながり、おまけとして先生の指導。**それが卒論です。

以上

※隣のページも覗いてみましょうか。日本史コースの先生がこんなことを書いておられました。西洋史だけではなく、どこの学科・コースも卒業論文を重視しているようです。

**「卒論で私の人生が変わりました。皆さんも頑張ってください」**